



速報 No. 2

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 山名幸一
編集人 西嶋保子
電話神戸(241)2345
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

6月2日中国・北京の中華全国総工会並びに中国教育科学文化衛生体育工会を訪問

お見舞いと哀悼の意を表すとともに、 教育復興支援としての義援金 200万円を贈呈

6月2日、兵教組の山名委員長・泉書記長が、中国・北京の中華全国総工会並びに中国教育科学文化衛生体育工会を訪問し、四川省大地震のお見舞いと哀悼の意を表すとともに、教育復興支援としての義援金200万円を贈呈した。

中国側は、

- | | | |
|-----------------|------|-----|
| ・中華全国総工会 | 事務局長 | 張秋儉 |
| ・中国職工对外交流センター | 副秘書長 | 白立文 |
| ・中国教育科学文化衛生体育工会 | 主席 | 王曉龍 |
| ・中国教育科学文化衛生体育工会 | 副主席 | 万明東 |

等、労働界の要人がふたりを迎えた。

会談の主な内容(要旨)

山名幸一委員長



山名委員長より義援金が贈呈された

この度、四川省で発生した大地震は、日本でも連日大きな報道がなされており、地震発生直後から私たち兵庫県の教職員は大変心配をしていた。

報道で、阪神・淡路大震災をはるかに上回る甚大な被害が発生したことを知り、私たちはいてもたってもいられなくなった。兵庫の教職員に緊急カンパを要請し、何としても皆様にお見舞を申し上げるとともに復旧・復興にむけて何か支援できることはないのかという思いでお邪魔した。

阪神・淡路大震災の折には、当時中国教育工会の蔣文良主席からお見舞をいただいた。

それ以降6回にわたって、中国の被災地の皆さんと神戸でシンポジウムを開催し、震災からの復旧・復興と、子どもたちの教育の問題について真剣に話し合いをしてきた。

兵庫でも多くの子どもたちや教職員が犠牲になったし、当時は学校が避難所となって、学校の教職員は、不眠不休でそのお世話をあたつたことをついこの間のことのように思い出す。今回の四川省では、多くの学校が崩壊し、子どもたちや学生がたくさん犠牲になったという報道を聞き、私たちは大変心が痛む。

中華全国総工会と教育工会の皆さんも被災地への支援・復旧にむけてお忙しい日々をお過ごしでしょう。私たち兵庫の教職員は子どもたち(学生)の心のケアに関するノウハウや経験を持っている。そういう分野でも今後何かお手伝いができるようなことがあれば、遠慮なくおっしゃっていただきたい。また救援物資等でも必要なものがあれば、最大限の努力をしたい。

昨年8月の兵庫の教職員が中国を訪問した際には、張局長、王主席に大歓迎をいただいた。あの時の大変楽しい思い出が残っているが、今回は、悲しい出来事の結果としての訪問となってしまった。日本には「困った時は、お互い様」という言葉がある。どうぞ遠慮なくおっしゃっていただきたい。本日はお忙しい中、私たちを丁寧に迎えていただきありがとうございました。

王晓龍主席の話

四川省大地震被災に対して、お見舞に来ていただき、義援金を持参いただいたことに、心からお礼申し上げる。汶川を震源地とする大地震による被害は中国全国民に大きなショックを与えた。

地震が発生したときは、授業中だったので数え切れない子どもたちの命が奪われた。同時に数多くの教職員が子どもの命を守ろうとして亡くなった。

このような甚大な被害はこれまでに無かった。自分の命を投げ打って子どもたちの命を守ろうとした教職員の存在を私たちは誇りに思う。

中国の国民が震災に立ち向かっているときに、海外からも絶え間ない支援がある。日本がいち早くレスキュー隊を派遣し、支援いただいたことは忘れられない。また、兵教組からいち早くお見舞をいただいたことも決して忘れない。

日本をはじめ海外からの支援をいただき、力強く思っている。私たちは、今回の困難を必ず乗り越えられると確信している。

瓦礫の大地の上に、永遠に倒れない校舎を建てて子どもの笑顔が輝く学校を一日も早く作っていく。

兵教組の皆さんに改めて感謝いたします。

張秋儉事務局長の話

日本から北京にお越しいただき、兵教組の皆さんのが中国の教職員、子どもに対して義援金を持参された善意の行動に感動を覚える。

中華全国総工会と兵教組は永年にわたる友好関係にある。

未曾有の大地震に対して胡主席、温首相は被災地の落ち込んだ気持ちを直接励まし、科学的に冷静な判断のもと救援活動を行っている。また、中国国民も政府を信頼して震災とたたかっている。

兵教組の組合員に、中国国民が大地震の中でも心をあわせて地震とたたかっていること、これは空前の団結の力であることを伝えてほしい。

中国国内でも被災地支援のカンパにとりくんでいる。中華全国総工会の義援金は既に30億元に達した。中国はまだ経済的に豊かではないが、みんながカンパに協力し、空前の募金額となっている。カンパ金の代わりに献血をする人もたくさんいる。

被災地の教職員は、子どもの命を守るために、自らが犠牲となった人がたくさんいる。教育部や教育工会は、こうした教職員の遺族へのできるだけの支援をしている。また、校舎の建て直しに向けて政府は八方手をつくして努力している。

しかし、被災地では住宅や生活用品がまだまだ足りない。阪神・淡路大震災を経験した日本は、住宅再建や心のケアなど、専門的な支援活動のノウハウをもっている。

中国政府は、すべての情報を公開し、友好的な援助活動を拒否することはない。

本日いただいた義援金は、すべて被災地の学校関係者に贈る。義援金の使途についてはガラス張りにし、監査部の担当者300人が現地に入ってその配分をチェックしている。義援金をこうして確実に被災地に渡すということを兵教組の組合員に伝えてほしい。

兵教組と中華全国総工会には長い友好の歴史がある。四川省大地震についての支援策について今後もぜひご意見を聞かせてほしい。義援金をご持参いただいたことに改めて感謝し、お礼の言葉としたい。

**「中国・四川省大地震」と「ミャンマー大型サイクロン」
被災地域に対する救援カンパに引き続きご協力を**



兵教組の『いのち やさしさ まなび』を見る張事務局長